

## 平成28年度 産業動物部会セミナーの開催

日本の貴重なタンパク資源を守るための市民・畜産者・支援者セミナー3 厳しい畜産情勢だからこそ「経営者の必須選択」と題し、平成28年11月21日に新潟ユニゾンプラザにて部会セミナーが行われた。このセミナーは生命にとって必須なタンパク質を確保する上で最も重要な位置を占める食肉の確保について、市民、生産者、獣医師および畜産技術者の三者で考えようという目的で実施され、特にベンチマーキングの手法を駆使した生産性の向上について行われたシリーズ3回目であった。今回は宮城県から、ピッグケア 養豚コンサル獣医師 田中正雄 先生をお招きし、「母豚と乳器を知り、哺乳成績の向上を～多産系母豚の生かし方～」と題し講演が行われ、獣医師16名、畜産経営者・畜産関係者27名、合計41名の参加者であった。

講演の内容は、多産系への改良、離乳頭数の改善例、泌乳、乳器の観察、分娩舎の管理、育成豚の管理および母豚の管理についてであった。大農場でも、母豚の乳器の状態を緻密に観察・記録し、哺乳可能頭数を見極め、過不足があれば、積極的に里子里親を利用し、離乳頭数を確保することが重要で、これまで講師の先生が行ってきたモニタリング、分析手法を詳細に披露していただいた。そのため、我々獣医師はもとより参加していた養豚経営者にとっても有意義な講演内容であった。また、普段、牛をメインに仕事をしている筆者にとっては豚の食糧資源としてのポテンシャルの高さにあらためて驚かされる内容であった。母豚は一頭一年間で、24頭～28頭の子豚を出産し、それらが枝肉となると1700kg～2000kgもの枝肉を生産する。一頭の母豚から一年間で枝肉2000kgあまり生産する。これは驚異的な数字で、豚という家畜の有効性と、そこまで育てる技術を持つ生産者をはじめとした産業全体の成熟性を示すものであろう。食糧の安定供給という面での養豚業界の貢献度は計り知れないと再確認した研修であった。

従来、我々、獣医師向けのセミナーを獣医師に加え生産者・支援者・市民を交えたセミナーにしようという山口部会長の発案で始められた試みで、今回で3シリーズ目と成る。賛同してくれる生産者も集まり有意義な取り組みとなってきている。



受講の様子



講演される 田中正雄 先生